

# 平成 16 年 2 月期 第 3 四半期財務情報（非連結）

平成 16 年 1 月 14 日

上場会社名 株式会社タカキュー

（コード番号：8166 東証第 1 部）

（URL <http://www.taka-q.com>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長

臼井一秀

責任者役職・氏名 常務取締役管理副本部長

大場通孝

（TEL：(03)5248-4100）

## 1．四半期財務情報の作成に係る事項

会計処理の方法の最近会計年度における方法との相違の有無：有（内容は別紙）

## 2．平成 16 年 2 月期第 3 四半期の業績概況（平成 15 年 3 月 1 日～平成 15 年 11 月 30 日）

### (1) 経営成績の進捗状況

（百万円未満切捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成 16 年 2 月期第 3 四半期	13,988	-	333	-	188	-	105	-
平成 15 年 2 月期第 3 四半期	-	-	-	-	-	-	-	-
(参考) 平成 15 年 2 月期	18,793		343		106		94	

	1 株当たり四半期（当期）純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期（当期）純利益	
	円	銭	円	銭
平成 16 年 2 月期第 3 四半期	4	33	-	-
平成 15 年 2 月期第 3 四半期	-	-	-	-
(参考) 平成 15 年 2 月期	3	86	-	-

(注)前年同四半期につきましては、四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

### [ 経営成績の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当第 3 四半期は、天候不順、冷夏の影響があったもののコーディネート販売の効果で客単価が向上し、中間期までの売上高は回復基調で推移しました。その後 9 月は秋冬商品立上がり時期の残暑で苦戦を強いられましたが、10 月は気温低下により順調な伸びを示しました。しかしながら 11 月は天候不順から主力となるアウター商品が不振で、期間では既存店で前年を下回るも全体ではほぼ横ばいの伸びとなっております。今期より展開した新たなお客様会員制度につきましては、特典の見直し等により会員数も増加の傾向にあり、特に信販会社との提携によるメンバーズカード会員の増加が会員顧客の再来店促進に大きく寄与しております。商品面では、「Wilkes Bashford」の強化及び、新ブランド「G12」の展開などにより、プライベートブランドは引続き商品粗利率の確保に貢献しております。また、今期初めて取り組んだ新業態の靴のセレクトショップ（アROUND・ザ・シューズ新宿店）がファッション感度の高い 30 代前後の男性に支持を受け、好調に推移しております。

この結果、当第 3 四半期の売上高は 139 億 8 千 8 百万円（参考値：前年同期比 100.0%）、経常利益は 1 億 8 千 8 百万円、四半期純利益は 1 億 5 百万円となりました。

## (2) 財政状態の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
平成 16 年 2 月期第 3 四半期	18,796	4,323	23.0	176 83
平成 15 年 2 月期第 3 四半期	-	-	-	-
(参考) 平成 15 年 2 月期	17,105	4,161	24.3	176 18

(注)前年同四半期につきましては、四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

### 【キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成 16 年 2 月期第 3 四半期	247	1,533	232	2,632
平成 15 年 2 月期第 3 四半期	-	-	-	-
(参考) 平成 15 年 2 月期	842	245	3,308	1,083

### [ 財政状態の変動状況に関する定性的情報等 ]

当第 3 四半期会計期間における現金及び現金同等物は、26 億 3 千 2 百万円と期首残高と比べて、15 億 4 千 8 百万円増加いたしました。

当第 3 四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

#### ( 営業活動によるキャッシュ・フロー )

営業活動による資金は、売上債権・たな卸資産が 20 億 3 千 7 百万円増加しましたが、税引前四半期純利益を 1 億 7 千万円及び、非資金的費用である減価償却費を 2 億 5 千 2 百万円計上したこと、また仕入債務が 15 億 8 千 1 百万円増加したこと及びその他の収入が 2 億 4 千 1 百万円であったこと等により、2 億 4 千 7 百万円の収入となりました。

#### ( 投資活動によるキャッシュ・フロー )

投資活動による資金は、新規出店・既存店改装等に伴い、有形固定資産を 1 億 6 千 6 百万円取得し、また保証金・敷金を 9 千 9 百万円差入れましたが、預入期間 3 ヶ月を超える定期預金を 12 億 2 千万円取崩したことと、保証金・敷金が 4 億 6 千 6 百万円返還されたこと等により、15 億 3 千 3 百万円の収入となりました。

#### ( 財務活動によるキャッシュ・フロー )

財務活動による資金は、短期借入金の返済等により 2 億 3 千 2 百万円の支出となりました。

### 3. 平成 16 年 2 月期の業績予想 (平成 15 年 3 月 1 日～平成 16 年 2 月 29 日)

業績は概ね当初予定どおりに推移しております。

#### 添付資料

要約貸借対照表、要約損益計算書、要約キャッシュ・フロー計算書など

以上

[ 添付資料 ]

1. 要約貸借対照表

( 単位:百万円、% )

期 別 科 目	当第3四半期会計期間末 (平成15年11月30日現在)		前事業年度末 (平成15年2月28日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比
<b>(資産の部)</b>				
流動資産				
1.現金及び預金	3,120		2,791	
2.受取手形及び売掛金	1,579		645	
3.たな卸資産	2,937		1,833	
4.その他	715		814	
5.貸倒引当金	0		1	
流動資産合計	8,352	44.4	6,084	35.6
固定資産				
(1)有形固定資産				
1.建物	904		915	
2.その他	840		835	
有形固定資産合計	1,745	9.3	1,751	10.2
(2)無形固定資産合計	47	0.3	42	0.3
(3)投資その他の資産				
1.投資有価証券	299		197	
2.賃貸不動産	881		939	
3.差入保証金	3,178		3,637	
4.敷金	4,239		4,264	
5.その他	816		1,016	
6.貸倒引当金	763		826	
投資その他の資産合計	8,650	46.0	9,228	53.9
固定資産合計	10,443	55.6	11,021	64.4
<b>資産合計</b>	<b>18,796</b>	<b>100.0</b>	<b>17,105</b>	<b>100.0</b>
<b>(負債の部)</b>				
流動負債				
1.支払手形及び買掛金	3,540		1,959	
2.短期借入金	8,910		9,001	
3.その他	746		668	
流動負債合計	13,197	70.2	11,628	68.0
固定負債				
1.退職給付引当金	570		590	
2.その他	705		725	
固定負債合計	1,275	6.8	1,315	7.7
<b>負債合計</b>	<b>14,472</b>	<b>77.0</b>	<b>12,944</b>	<b>75.7</b>
<b>(資本の部)</b>				
資本金	-	-	10,284	60.1
欠損金	-	-	6,168	36.1
其他有価証券評価差額金	-	-	46	0.3
自己株式	-	-	1	0.0
<b>資本合計</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>4,161</b>	<b>24.3</b>
資本金	10,284	54.7	-	-
利益剰余金	6,062	32.2	-	-
其他有価証券評価差額金	103	0.5	-	-
自己株式	1	0.0	-	-
<b>資本合計</b>	<b>4,323</b>	<b>23.0</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>18,796</b>	<b>100.0</b>	<b>17,105</b>	<b>100.0</b>

## 2. 要約損益計算書

(単位:百万円、%)

期 別 科 目	当第3四半期会計期間 自平成15年3月1日 至平成15年11月30日		前事業年度 自平成14年3月1日 至平成15年2月28日	
	金 額	構成比	金 額	構成比
売上高	13,988	100.0	18,793	100.0
売上原価	6,546	46.8	9,088	48.4
売上総利益	7,442	53.2	9,704	51.6
販売費及び一般管理費	7,109	50.8	9,360	49.8
営業利益	333	2.4	343	1.8
営業外収益	452	3.2	614	3.3
営業外費用	596	4.2	852	4.5
経常利益	188	1.4	106	0.6
特別利益	20	0.1	184	1.0
特別損失	39	0.3	111	0.6
税引前四半期(当期)純利益	170	1.2	179	1.0
法人税、住民税及び事業税	65	0.5	85	0.5
四半期(当期)純利益	105	0.7	94	0.5
前期繰越損失	6,168		6,263	
四半期(当期)未処理損失	6,062		6,168	

## 3. 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	当第3四半期会計期間 自平成15年3月1日 至平成15年11月30日	前事業年度 自平成14年3月1日 至平成15年2月28日
	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー		
1. 税引前四半期(当期)純利益	170	179
2. 減価償却費	252	341
3. 貸倒引当金の減少額	12	36
4. 賞与引当金の増加額	38	0
5. 退職給付引当金の減少額	18	9
6. 固定資産除却損	19	38
7. 受取利息及び配当金	11	16
8. 支払利息	140	189
9. 売上債権の増加額	933	16
10. たな卸資産の増減額(は増加)	1,103	153
11. 仕入債務の増加額	1,581	104
12. 未払消費税等の減少額	23	49
13. 未収消費税の増加額	2	-
14. その他	241	55
小計	338	934
15. 特別退職金の支出	4	-
16. 法人税等の支払額	86	92
営業活動によるキャッシュ・フロー	247	842
投資活動によるキャッシュ・フロー		
1. 定期預金の預入による支出	-	1,220
2. 定期預金の払出による収入	1,220	145
3. 有形固定資産の取得による支出	166	212
4. 有形固定資産の売却による収入	37	12
5. 関係会社株式の取得による支出	4	6
6. 貸付による支出	4	3
7. 貸付金の回収による収入	103	75
8. 保証金敷金の差入による支出	99	177
9. 保証金敷金の返還による収入	466	1,131
10. その他の資産取得による支出	23	4
11. 預り保証金の返還による支出	8	24
12. 預り保証金の受入による収入	0	21
13. 利息及び配当金の受取額	11	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,533	245
財務活動によるキャッシュ・フロー		
1. 短期借入による収入	200	700
2. 短期借入金の返済による支出	290	3,814
3. 自己株式の取得売却による収支	0	1
4. 利息の支払額	140	192
財務活動によるキャッシュ・フロー	232	3,308
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,548	2,711
現金及び現金同等物の期首残高	1,083	3,795
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	2,632	1,083

#### 4．四半期財務諸表作成のための基本となる事項

当社は、中間財務諸表等の作成基準をベースとしつつ、以下のとおり投資者等の利害関係者の判断を大きく誤らせない範囲で一定の簡便な手続を採用している。

##### [ 簡便な手続の内容 ]

- ・貸倒引当金の計上基準等に一部簡便的な方法を採用しております。

#### 5．会計方針の変更

当社は、当第3四半期会計期間から、以下のとおり会計方針を変更している。

##### [ 変更内容 ]

従来、営業外収益に計上しておりました提携クレジットカード会社からの新規クレジットカード会員獲得に伴う手数料収入を、当第3四半期会計期間より売上高に計上することに変更いたしました。

この変更は、当該収入が店舗従業員による営業活動から生まれた成果であり、また、当期よりカード会員の拡大による新規顧客、優良顧客の獲得と囲い込みを重要な営業戦略の一つとして強化したため、その金額的重要性が高まったことから、損益区分をより適正に表示するために行ったものであります。